其の為に僅かばかりアリカウントに残った為に
大根の方ンツラターにち拂事が出来ほんなった
（一萬七千弗ばかり）

七十三年度の大根の前付仕度等はぼつぼつ
注事半ばになって居った的銀行から七十三年度の
生産費がどの位いるか書き出す様にとの事で
四萬弗位必要であり此の中には七十二年度の大根の
カミツラターにち拂つき金もふくまれて居った
慎が銀行に持て行った処
七十二年度の世萬弗の利子まち拂て居らぬから
借す事は出来ぬとことはられた。

早速三和銀行に行金の借り替の相談をした処
大体OKと心配するな畑ばかりではあるしマーケイヨコは
よいからとの返事であった。
其の後村上氏より電話でどうなったかの問合せがあり
慎が色いろ金が出来るから拂えると返事も
した処村上氏はどこからかと折り返し何べんも
きかれたので三和といった処自分で問合せると
いう事であり其の日車銀がかせなら拂なと処と
はなれもかす者は居らぬといわれて居られた。

七十二年十二月末東証の村上氏が来られたため
自分からコンデッシヨンで金を借してやるから
畑とやたらにダンプするな隣り近所がめいわく
なるからあたらしい所の便で言われとの注意であった。

七十二年の十二月大根会社のフィルムが来て
七十三年度のカンツクトペイパーにサインをした

七十三年の二月中東証が来られ心配をするな
七十四年で五年目になる外人の支払の件も
助力してやると村上氏がいわれた。

七十三年の一月三萬弗借りのれた的七十二年度の
クラツプの金は大根から直接証行の方に送る事に
なりきめになった。

七十二年度の大根の收穫は七十三年度の
四月收了した。

此の收穫金が証行にのこた的其の金を当方に
通知なく

七十一年六月から一の世一萬弗の
七十一年十二月迄　利子

七十二年一月借りのれ　三萬弗元金と利子
全部を差引かれてしまった。